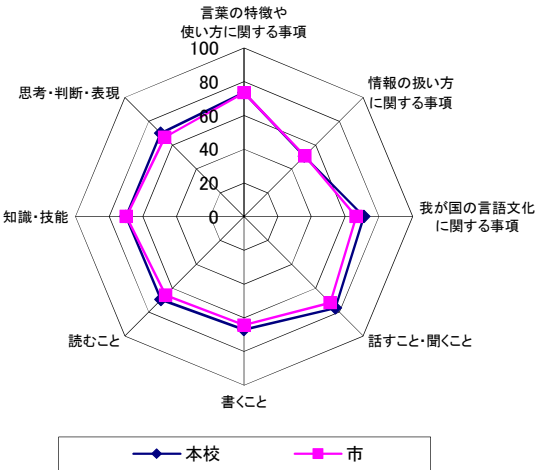


宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.5	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	50.6	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	71.1	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	76.7	72.3	73.7
	書くこと	67.0	64.3	66.6
	読むこと	69.6	65.8	64.9
観点別	知識・技能	70.1	69.8	70.8
	思考・判断・表現	70.0	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

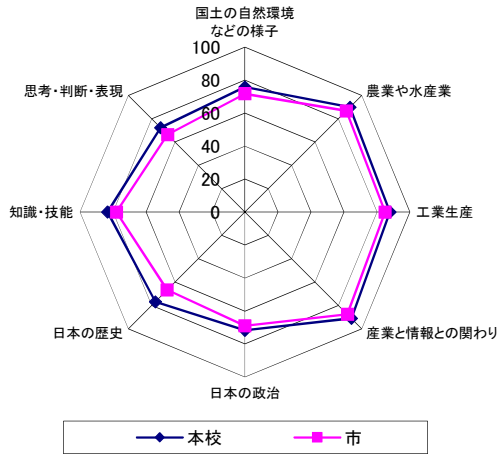
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率が73.5%で市平均と同等である。 ○第6学年に配当されている漢字を読む設問や敬語の使われ方に関する設問では、市平均を全て上回っている。 ●敬語について理解し、正しく使っているかを問われる設問では、平均正答率が15.6%で市平均を6.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も継続的に新出漢字のみならず既習漢字の復習にも取り組んでいき、定着を図る。 ・敬語についての基礎的事項を、教科書等を用いて確認し、日常の中から意識的に活用することで定着を図る。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率が50.6%で市平均を0.4ポイント下回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、平均正答率が50.0%で市平均を0.7ポイント下回っている。	・普段の授業の中から本文を抜き出すだけでなく、本文中の情報と情報の関係について考え、整理するような課題に取り組ませるなど、様々な問題に触れる機会を増やしていく。また、国語だけでなく他教科との関連を図り、情報を整理していく力の育成に努める。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率が71.1%で市平均を4.6ポイント上回っている。 ○語句の由来に関心をもったり、和語、漢語、外来語について問われている設問では、平均正答率が71.1%で市平均を4.6ポイントとやや上回っている。	・今後の学習でも、和語、漢語の違いについて復習する機会を設け、指導を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率が76.7%で市平均を4.4ポイント上回っている。 ○インタビューの内容を聞き取り、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える設問では、平均正答率が55.6%で市平均を9.2ポイント上回っている。	・授業の中で話し合う機会を多く設けたり、役割を決めて話し合いをする活動を取り入れたりしてきたことが成果となって表れたと考えられる。今後も話し手の意図を考えて話を聞く力を身に付けられるよう継続して指導していく。
書くこと	平均正答率が67.0%で市平均を2.7ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて書き表し方を工夫してポスターを作る設問では、平均正答率が80.0%と市平均を9.5ポイント上回っている。	・授業や課題の中で視写や作文を書くことに多く行ってきた成果が表れたと考えられる。今後も条件を意識させながら書く活動を意図的に取り入れていく。
読むこと	平均正答率が69.6%で市平均を3.8ポイント上回っている。 ○人物像を具体的に想像する設問では、平均正答率が90.0%で市平均を4.1ポイント上回っている。	・物語文を読んでまとめた意見や感想を共有したり、説明文において事実と感想、意見などとの関係を叙述を基におさえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握することができるよう、引き続き指導を継続していく。これまで同様、朝の読書の時間を充実させ、本に親しむ機会も大切にしていく。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.8	71.6	69.6
	農業や水産業	90.0	86.7	83.7
	工業生産	87.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	91.1	87.7	77.4
	日本の政治	71.7	68.9	71.7
	日本の歴史	76.8	66.7	66.3
観点別	知識・技能	83.3	78.0	76.7
	思考・判断・表現	72.4	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

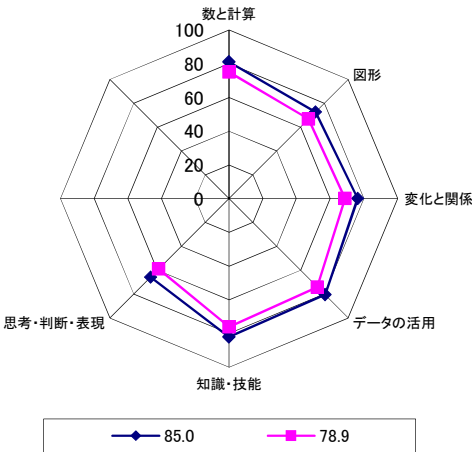
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率が75.8%で市平均を4.2ポイント上回っている。 ○日本からの方角や地形の特色から、世界の国々についての理解を問う設問では、平均正答率が90.0%で市平均を8.9ポイントと大きく上回っている。 ●国内での自然環境を守る取り組みについて考える設問では、平均正答率が80.0%で市平均を0.7ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国土の主な地形の名称を確認するとともに、地図帳や各種の資料を活用し、方位や位置関係、範囲などの理解を深められるよう指導を継続する。 ・新聞やニュースなどを活用し、我が国の自然環境に関心をもてるよう指導を継続する。また、我が国の環境保全に対する課題について、主体的に考え、それらの問題を解決しようとする態度を養うようにする。
農業や水産業	平均正答率が90.0%で市平均を3.3ポイント上回っている。 ○米の生産の工程についての理解を問う設問では、平均正答率が86.7%で市平均を5.1ポイントと大きく上回っている。 ○水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する設問では、平均正答率が92.2%で市平均を4.0ポイント上回っている。	・引き続き、資料を効果的に活用して理解を深められるようにする。また、我が国の農業や水産業は、自然条件を生かして営まれていることについて、教科横断的な指導を通して理解できるようにする。 ・自身も消費者の一員であることを自覚できるようにし、身近な生活と結び付けながら、生産や消費だけでなく流通にも目を向けられるよう指導を工夫していく。
工業生産	平均正答率が87.8%で市平均を2.8ポイント上回っている。 ○自動車の製造工程についての理解を問う設問では、平均正答率が94.4%で市平均を5.1ポイントと大きく上回っている。 ○工業製品の分類についての理解を問う設問では、平均正答率が94.4%で市平均を2.2ポイント上回っている。	・引き続き、各種資料や地図帳を活用し、我が国の工業生産における特徴について理解できるよう指導を工夫する。 ・教科書に出てきた統計資料の読み取り方を確認したり、複数の資料を関連付けて読み取ったりする活動を取り入れていく。また、読み取った内容についての特徴や相違点などについて考えたり、話し合ったりすることで、我が国の工業生産について理解を深められるよう指導を工夫する。
産業と情報との関わり	平均正答率が91.1%と市平均を3.4ポイント上回っている。 ○情報の発信と受信の注意点について考える設問では、平均正答率が85.6%で市平均を6.5ポイントと大きく上回っている。	・引き続き、新聞、雑誌、1人1台端末などを活用し、調べたい内容について情報を集める活動を行っていくことで、メディアの特徴に気付けるようにしていく。 ・複数の資料を読み取り、その内容についてノートや1人1台端末にまとめたり、話し合ったりすることで、産業と情報との関わりについて理解を深められるようにしていく。
日本の政治	平均正答率が71.7%と市平均を2.8ポイント上回っている。 ○国民の義務についての理解を問う設問では、平均正答率が90.0%で市平均を2.3ポイント上回っている。 ●内閣の働きについての理解を問う設問では、平均正答率が38.9%で市平均を3.5ポイント下回っている。	・引き続き、日本国憲法の基本的な考え方と身近な生活に関連付けて、日本国憲法の特徴や役割について考えられるようにしていく。 ・内閣のしくみや働きは、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る上で大切であることを理解できるよう指導を工夫する。また、自分にはどのようなことができるのかを考え、表現する活動を増やしていく。
日本の歴史	平均正答率が76.8%で市平均を10.1ポイントと大きく上回っている。 ○鉄砲伝来についての理解を問う設問では、平均正答率が97.8%で市平均を10.1ポイントと大きく上回っている。 ●元との戦いについての理解をもとに、防塁について考え、表現する設問では、平均正答率が41.1%で市平均を12.6ポイントと大きく上回っているが、正答率が低く課題がみられる。	・各種資料を活用して詳しく調べる活動を多く取り入れ、歴史上の出来事や、政治のしくみなどを理解できるようにし、またその政策の意味や意図についても考えられるように指導していく。 ・調べて考えたことや理解したことを整理してまとめる活動において、歴史の流れに沿って正しく理解し、適切に表現する技能を身に付けられるよう指導していく。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.1	75.1	75.8
	図形	72.6	66.8	68.3
	変化と関係	76.3	68.8	65.0
	データの活用	80.6	74.1	63.6
観点別	知識・技能	82.0	76.1	75.8
	思考・判断・表現	65.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

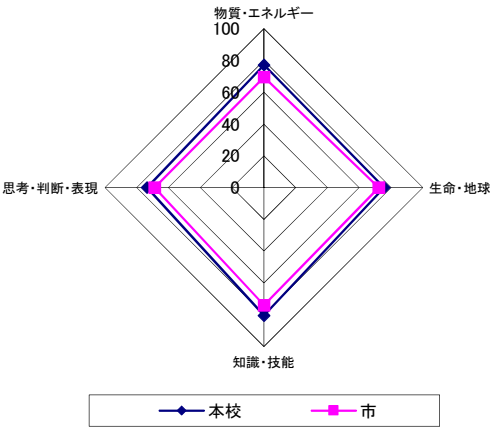
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は81.1%で市平均を6ポイント上回っている。 ○分数の計算で片方の分母にそろえる通分をする計算では、平均正答率が87.8%で市平均を14.2ポイントと大きく上回っている。 ●小数第一位×小数第一位の計算では、平均正答率が62.2%で市平均を3.9ポイント、市平均を11.4ポイントも下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算力を高めるために、今後もドリル等で練習を継続して行うとともに、まとめの学習の充実を図り、当該学年で身に付ける基礎基本の習得に努める。 ・具体的な場面と式を結びつける学習を可能な限り取り入れ、活用する力を養う。
図形	平均正答率は72.6 %で市平均を5.8 ポイント上回っている。 ○三角形の展開図から、見取り図の辺の長さを読み取る設問では、市平均を8.4ポイント上回っている。 ○合同な三角形を作図する設問では97.8%で、市平均を9.5ポイント上回っている。 ●2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める設問では、74.4%で全国をわずかに下回っている。	・図形の面積を求めたり、筋道を立てて考え説明する力は身についてきている。更なる定着を図りたい。 ・具体物を使って図形を組み立てたり、分解したりしながら、図形についての見方や感覚を養う活動の充実を図る。
変化と関係	平均正答率は76.3%で市平均を7.5ポイント上回っている。 ○基準量と比較量から、割合を求める設問では、68.9%で平均正答率は高くはないが、市・全国共に15.1ポイント上回っている。 ○速さと道のりから、時間を求める設問では、83.3%で市平均を3.9ポイント上回っている。	・単位量あたりの大きさや速さの問題に苦手意識をもっている児童が見られる。比較量と基準量の求め方や違いについて、基本問題を中心に反復して取り組みさせ定着を図る。 ・単元の特性に応じて、習熟度別指導や少人数指導、TT指導など指導方法を工夫し、個に応じた指導に努める。
データの活用	平均正答率は80.6%で市平均を6.5ポイント上回っている。 ○中央値を求める設問では市平均より5.6ポイント、最頻値を求める設問では2.7ポイント上回っている。 ○ドットプロットのデータを度数分布表に表す設問では、平均正答率が97.8%と高く、市平均を11.9ポイント上回っている。 ○4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める設問では、市平均を6.2ポイント上回っているものの、平均正答率が47.8%と低い。	・代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴や使い方を理解させ、データを多面的に分析して活用する力の伸長を図る。 ・代表値を用いる際は、データの分布の確認、文脈に応じた代表値を選択できるよう指導する。 ・「岡本西小授業スタンダード」の中にも位置付けてある「授業の振り返り」を行うことで、自分の考えを整理して表現する力を継続して付けていく。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.2	69.5	65.2
	生命・地球	75.7	72.3	70.1
観点別	知識・技能	80.4	74.0	70.7
	思考・判断・表現	73.5	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率が77.2%で市平均正答率を7.7ポイント上回っている。 ○乾電池2個を使って電磁石のはたらきを強くするために、どのようにつなげばよいかを問う設問では、平均正答率が91.1%で市平均正答率を17.6ポイントと大きく上回っている。 ●水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法について指摘できるかを問う設問では、平均正答率が45.6%と市平均正答率を2.7%上回っているものの、半数以上の児童が正しく答えることができていない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・条件を意識しながら、器具を正しく扱い実験する態度が身に付いてきている。引き続き児童自らに実験計画を立てさせ、意図的に体験を増やしていく。 ・問題文で問われていることを十分に考えず、語句を当てはめてしまう傾向がみられるので、目的意識をもって、実験に取り組ませるとともに結果から分かることを自分の言葉を使って説明する活動を多く取り入れることで、考えを深められるようにする。
生命・地球	平均正答率が75.7%で市平均正答率を3.4ポイント上回っている。 ○肝臓のはたらきを問う設問では、平均正答率が76.7%で市平均正答率を15.2ポイントと大きく上回っている。 ●農家がテントウムシを畑に放す理由を食物連鎖をもとに推測する設問では、平均正答率が63.3%と市平均正答率を7.8%下回っている。	・人の体のつくりなど、直接観察や実験が行いにくい学習では、映像や模型、図書などの資料を活用して情報を集めて整理させると同時に、カードなどを使って、繰り返し重要語句の定着を図っていく。 ・食物連鎖という言葉は理解しているが、身近な生き物との結びつきが不十分だったと考えられる。実際に観察したり、図書やインターネットの情報などを利用して多面的に調べる活動を通して、理解を深めることができるよう指導していく。

宇都宮市立岡本西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
豊かに表現する児童の育成	児童個々の学びが対話的な学びにつながる言語活動の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」では、3、4、6年生では肯定割合が80%を上回ったものの、1、2、5年生では下回った。また、3～6年では、「自分の考えを根拠を挙げながら話すことができる。」の項目で、肯定割合が7割程度であり、最も低い学年では61.7%であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各教科の誤答及び無回答率、質問紙の結果から、「自分の考えを言葉で表現すること」に課題を抱えている児童が、全体の30～40%程度いることが明らかになった。この課題の要因として、以下の2点が考えられる。

①自分の考えをもつことに苦手がある。（思考力・判断力）

②自分の考えを表現することに苦手がある。（表現力）

そこで「自分の考えを言葉で表現すること」の課題解決に向け、以下の2点の取組を行う。

①自分の考えをもつことができる児童の育成

- ・グループ学習での意見交換を通して、多様な考え方に触れ、自分の考えを深める学習活動を展開する。
- ・思考を深めるような「なぜ?」「どうして?」といった開かれた発問をしたり、答えを一つに決めつけるのではなく、多様な考え方を引き出したりする指導を実践する。

②自分の考えを表現できる児童の育成

- ・主に国語の授業において、説明文や物語文を読み解き、文章構造や登場人物の心情を分析する活動や自分の考えを相手に伝えるように、文章構成や言葉遣いを意識した作文活動、意見交換を通して、異なる視点や考え方を理解し、自分の考えを整理する活動等を行う。

- ・思考の仕方を可視化するモデルを示すことで、児童の理解を助ける。

- ・読書活動を推進し、語彙力や表現力を豊かにする。